

≪「特殊コレクション」巡り ③≫

安秉珪文庫について

京都大学名誉教授 飯 沼 二 郎

人文科学研究所に所蔵されている^{アンピョンデ}安秉珪文庫は、ほとんど一般に知られていないが、朝鮮近代経済史に関するきわめて貴重な資料を多数ふくんでいる。1976年4月から、人文科学研究所で始まった朝鮮近代史の共同研究は、第1期3年、第2期2年と5年間つづいて、私の定年退職と共に1981年3月に解散したが、飯沼・姜在彦共編『近代朝鮮の社会と思想』、同編『植民地期 朝鮮の社会と抵抗』という2冊の報告書を残した。

私は、安秉珪氏のお名前は、朝鮮近代経済史のすぐれた研究者として、かねてから承知していたから、この共同研究を行うことが決まったとき、まっ先に安氏の参加を要請した。幸い、安氏の快諾を得て、毎週一回、ご一緒に共同研究を行うことができるようになったが、それは参加者全員の大きな喜びであった。ところが、一か月ほどして、安氏はご病気のため休まれることになった。坐骨神経痛とのことだったので、ほどなく快癒されて、再び共同研究をご一緒につづけられる日を楽しみにお待ちしておりますのであったが、全く思いがけず、同年10月31日に突然逝去された。病名は肝臓がん。まだ45歳の若さであった。日本の大学には、朝鮮近代史の講座がどこにもないため、その研究者はきわめて少ない。その中でも、朝鮮近代経済史の研究者はとくに少なく、安氏は全く貴重な存在であった。安氏とご一緒に研究することが、この共同研究の大きな期待であっただけに、この突然のご逝去は、私達を一時まったく茫然たらしめた。

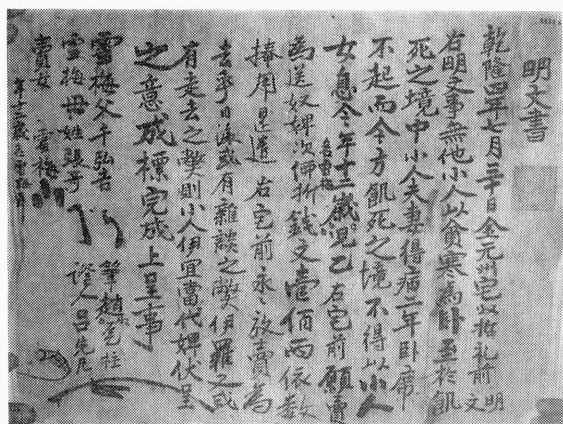
安氏は1931年5月、大阪に生れ、大阪市立大学経済学部を卒業後、商事会社就職されたが、一年後に退社し、京都大学経済学部の修士課程に入学され、つづいて博士課程に進まれた。博士課程を修了後は、龍谷大学、立命館大学、関西大学、桃山学院大学、甲南大学などで非常勤講師をされ

る一方、矢つぎ早やに、すぐれた論文を発表され、学界の注目をあびた。それらの論文は、『朝鮮近代経済史研究』（1975）と遺稿集『朝鮮社会の構造と日本帝国主義』（1977）にまとめられている。

ご逝去の直後から、安氏の集められた貴重な資料の散逸を防ぎたいという声があり、姜在彦氏のお骨折りと、安未亡人のご好意によって、それを安秉珪文庫として一括して保管するという条件の下に、きわめて格安に人文科学研究所にお譲りいただくことができた。その中には、安氏の多くの研究ノートをはじめ、安氏自身が撮影した多くの資料などがあり、私達は、全精力を傾注して猛然と進められていた研究活動が、突然に中断されたという感を強くもつ。

安秉珪文庫の冊子目録は人文科学研究所から発行されているので、詳細は、それをごらんいただきたいが、簡単にその内容を紹介してみたい。まず大部な叢書類としては大韓民国文教部国史編纂委員会編『韓国史料叢書』20巻30冊、同編『高宗時代史』6巻、『備邊司謄録』28巻、『李朝実録』56巻、『日省録』44巻などがあり、また個人の全集、選集としては李德懋『青莊館全書』3巻、丁若鏞『與猶堂全書』6巻、安鼎福『順庵叢書』2巻、『安在鴻遺稿集』などがある。これらは、いずれも李朝史研究上、重要な資料である。

次に地方誌の類であるが、とくに釜山にかんする資料が注目される。いうまでもなく、釜山は、現在でも韓国第一の貿易港であるが、日本との関係も深く、室町時代から対日貿易のために開港され、江戸時代の倭館貿易もここで行われた。明治期にはいっても、江華島条約によってまっ先に日本人の居留地として、日本がアジア大陸に進出するための最初の拠点となった。その資料を具体的にあげれば、まず釜山市史編纂委員会編『港都釜



解説

安氏が撮影、整理した「田舎放売」
「奴婢放売」文書の一部

山』6冊(1962-67)が貴重である。その内容を示せば、第1号・釜山市政府直轄市昇格関係法令、第2号・東萊府吳倭館の行政小考、釜山の貿易考、釜山の築港誌、釜山地方の基督教(新教)布教状況、釜山地方の歳時風俗(以下略)、第3号・釜山開港の研究(上)、釜山温泉に関する研究(1)、1910年以前の釜山の洋風建築、日本記録에서 본壬辰乱、朝鮮王朝実録釜山関係抄存、第4号・釜山開港の研究(中)、釜山温泉に関する研究(2)、乙酉条約成立始末과歳遣船数에 대하여、日帝下釜山の労働運動、蓬萊別曲の研究、褒忠統後録、復戸録券、第5号・釜山開港の研究(下)、釜山開港の比較史的意義、東萊府啓録抄、日省録抄、朝鮮事務書目録抄、備邊司謄録抄、朝鮮婦好録抄、第6号・釜山開港後韓国各港에 관한研究、開港直後釜山の社会文化、釜山市政府直轄昇格経緯、釜山市関係歴代先生案、釜山市内金石文 및 懸板史料調査報告、東萊府誌、忠烈祠誌、釜山市関係文献資料紹介、釜山市一帯の動植物分類目録、釜山地方の貝塚、慶尚南道宁移転関係資料、釜山南港埋築関係資料、開港後釜山新教育の展開、開港以後の医療史、開港以後の釜山の水産業、釜山近代工業発達史(上)、開港直後の貿易商業関係史料抄、釜山近代工業発達史関係史料解説。

このほか朴元杓『郷土釜山』(1967)、同『釜山変遷記』(1970)、また『達城郡誌』2巻、『仁川府史』(1933)、『大邱府史』(1943)、藤村徳一編『居留民之昔物語』第1編(京城、1927)などが

ある。しかし、統計書の類は案外すくない。一方、日帝時代の経済史関係の資料はさすがに多い。

『韓国ニ於ケル第一銀行』(1908)、『東洋拓植株式会社十年史』『二十年史』『三十年史』『朝鮮銀行六十五年史』『韓国商業銀行七十年史』『第一銀行韓国各支部支店出張所開業以来営業状況』『朝鮮殖産銀行十年志』『二十年志』『朝鮮銀行二十五年史』などの銀行史のほかに、『朝鮮殖産銀行と朝鮮の産業』(1924)、『大韓天一銀行公牒存案解説』(1960)、『京城電気株式会社二十年沿革史』(1929)、『朝鮮瓦斯電気株式会社発達史』(1938)、『朝鮮金融組合史』(1929)、『朝鮮金融組合協会史』(1933)、朝鮮銀行京城総裁席調査課編『朝鮮に於ける内地資本の流出入に就て』(1933)など貴重な資料がそろっている。このほか高承済『近世韓国産業史研究』(1959)、川合彰武『朝鮮工業の現段階』(1933)、金錫淡等『朝鮮社会経済史』(1946)、渡辺弁三『朝鮮の金鉱と重要鉱物』(1934)、八木朝久『平壤のメリヤス工業と平南の農村機業』(1943)など、経済史研究書の類も多い。

安氏が、その短い晩年、とくに農業問題の研究に力を注がれたことを反映して、朝鮮総督府や各道発行の小作慣行調査書の類が多いが、とくに注目すべきものとしては、京都大学所蔵の朝鮮文書と天理大学所蔵の今西春秋文庫に収められた土地売買文書を安氏が撮影、焼付け、整理し、「衿給文記、田畓粘連文記、田畓放売文記」「空垓・家舍粘連文記、空垓・家舍放売・典当文記」「各様

買得田畚導掌貢物奴婢都案」「奴婢放売・典当文記、綿紬壓関係資料」と名づけられた4冊のノートがある。これらは、現在でも、閲覧はなかなか困難なもので、おそらく安氏の熱意にうごかされて、写真撮影を許されたものであろう。安氏は、これらの土地売買文書約250枚に、『朝鮮土地調査事業報告書』や和田一郎『朝鮮土地・地稅制度調査報告書』などに収録された土地売買文書約170枚を加えて研究を進められ、1910年から1918年にかけて行われた土地調査事業の前提としての土地

所有の性格を明らかにしようとしたが、惜しくも、その研究の端緒で倒れたのであった。生前にまとめられた唯一の論文「田畚典当・放売文記の研究」は、遺稿集『朝鮮社会の構造と日本帝国主義』に收められている。

この簡単な紹介を終るにあたり、私は、安秉珪文庫が多くの人々によって利用され、こころざし半ばにして倒れた安氏の研究が引きつがれ、発展されることを、こころから願わずにはおられない。

《ニュース》

附属図書館が理工学系外国雑誌センター館に指定される

昭和52年度から逐次、特定の分野（理工学、医学・生物学、農学、昭和61年度から人文・社会科学）ごとに外国雑誌センター館が指定され、外国刊行学術雑誌の国内未収集誌を網羅的に収集してきました。この事業の大きな目的は、国内の研究者が必要とする文献を諸外国の専門機関に依存することなく、国内で網羅的に収集し、迅速な提供を行うことにより、研究者の活動を支援することにあります。

理工学分野では、この事業の初年度に東京工業大学附属図書館がセンター館に指定され、収集は勿論のこと、サービス面においても積極的な活動を行ってきました。

理工学分野の一段の整備充実を図るため、本年6月2日付で、文部省から本学附属図書館が理工学分野のセンター館に追加指定されました。資料の収集方針、その他センター館の活動に関することは、関係部局選出の附属図書館商議員の助言を受け文部省、東工大図書館及び他分野センター館とも密接な調整をはかりながら、進められ、62年度の購入誌として484タイトルを発注したところです。現在、鋭意63年版の購入資料の選定準備を行っています。

新しい情報検索サービスの提供開始

＜NACSIS-IR＞

学術情報センターでは、昭和62年4月から、情報検索サービス（NACSIS-IR：National Center for Science Information System-Information Retrieval Service）を開始しました。このサービスは学術情報センターの内外で作成される様々な学術情報データベースを導入し、研究者の学術研究活動、図書館における参考調査活動の支援を目的としています。本学における利用資格者は、教官、大学院学生、研究生、文部省科学研究費補助金の研究代表者及び分担者、図書館職員等、その他部局長が適当と認めた者です。また支払は校費のほか私費も認められます。接続方法にはオンライン端末機を①公衆電話回線又は第2種パケット交換網を通じて直接か、あるいは②各大学の情報処理センターや大型計算機センターを通じての二種類があります。すなわち、研究室等の端末からの直接のアクセスも可能です。学内の図書館（室）による代行検索サービス（利用者に代って図書館員が検索を行う。）も認められており、本学では現在、附属図書館（参考調査掛）と農学部（学術

データベースの種類	数	接 続 料	ヒット料
二次情報（COMPENDEX等）	8	50円／分	13円／件
MARC（LCMARC等の機械可読目録）	3	30円／回	0
目 録 所 在 情 報	2	30円／回	0